

第5回 県庁舎のあり方等に関する検討会 議事要旨

1 日 時 令和7年10月21日（火） 10時00分～11時15分

2 場 所 兵庫県庁第2号館5階 庁議室（オンライン併用）

3 出席者

（1）検討会構成員 ※敬称略

氏 名	職名等	出欠
妹背 勝幸	兵庫県 DX推進監	出席(オンライン)
上村 敏之	関西学院大学経済学部 教授	出席(オンライン)
塩出 佐知子	P&Gジャパン合同会社 ガバメントリレーションズ ディレクター	欠席
開本 浩矢	大阪大学大学院経済学部研究科 教授	出席
古屋 浩	日本放送協会神戸放送局 局長	出席
赤澤 宏樹	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	欠席
秋元 勇人	西日本旅客鉄道(株) 近畿統括本部 兵庫支社 副支社長	出席
大井 史江	武庫川女子大学建築学部建築学科 准教授	欠席
嘉名 光市 ※	大阪公立大学大学院工学研究科 都市系専攻 教授	出席
小泉 寛明	(株)緑青舎 取締役	出席
高田 知紀	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授	欠席
奈良山 貴士	みなと元町タウン協議会 副会長	出席
蓮池 國男	神戸元町商店街連合会 会長	欠席
津島 秀郎	神戸市 都市局 都心再整備本部 局長（事業推進担当）	出席
大豊 康臣	兵庫県議会 副議長	出席
紅谷 昇平	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授	欠席

※：会長

（2）県当局

齋藤知事、服部副知事、木村理事、池田防災監、有田総務部長、中之蘭財務部長、田中県民生活部長、波多野職員局長兼県庁舎整備プロジェクト室参事、松井県庁舎整備プロジェクト室長、津志新庁舎企画課長 ほか

4 主な意見

※ 開会あいさつ、メンバー紹介、資料説明等については省略するとともに、発言内容は一部要約しています。

- 今回の基本構想は、現在・未来だけでなく、過去から現在、未来へと続いていく構想となるよう、皆が納得できる内容にする必要がある。
- 基本理念の策定にあたり、阪神・淡路大震災など県が経験したことや、新しい働き

方の取り組みなどで得た知見を踏まえたうえで、成り立っていることが示されている。

- 新庁舎整備は耐震性不足が背景であるが、構想の冒頭に理念を記載し、ポジティブなストーリーから入る形になったのは良かった。
- 事業費が注目されているが、本来は、新庁舎の完成でどのように働き方、まちが変わるかが重要なポイント。それが報道に反映されていないため、発信を考える必要がある。
- 工事囲いでパースを描く以外にも、神戸市が三ノ宮駅で実施しているデジタルサイネージの活用も活用すれば、にぎわい創出の点でも効果的であるため、検討してはどうか。
- モトキタだけでなく、どんな兵庫を目指すかについて県民へどのようにメッセージを伝えるかが重要。災害対応に関することは特に重要。
- 物価上昇を踏まえると、整備費がある程度ぶれるということは仕方がない側面はあるが、整備費の上昇をいかに抑制するかは今後の課題。
- 仮移転を契機に、資料廃棄、DX化を進め、日本一のスマート県庁を目指すなど、抜本的な取組があると良い。
- 基本理念の中の県庁舎の記載で、「コンパクト」と「機能性」という言葉は矛盾するように思う。執務面積を減らし、コスト削減を連想させるので、理念の中でコンパクトと書くのはシュリンクするように見えてしてしまう。
- 税金の節約は理解するが、インフレの時代であるので、事業費を削減すると言うよりも、必要な機能を確保するには一定コストが必要という説明するほうが理解を得られやすいのではないか。
- 働き方は手段であり、目指す方向とは少し違うと思う。50年後にはテレワークなどは新しい働き方とは言えないことから、普遍的な理念としては「職員のウェルビーイングの実現」を全面に出したほうがよりふさわしい。

※ 機能的でコンパクトな県庁舎整備は、これまで、県において県政改革方針等で掲げている大きな方針であり、見直しは困難。機能性とコンパクトが両立させていくことを今後、様々な機会を通じて説明していきたい。（事務局より説明）

- 単なる建替というより、エリアリノベーションという位置づけで、投資のニュアンスを出せば望ましい。そのためには、民間提案エリアが具体的でない（これから検討）ため、県民目線では少し分かりにくいかもしれない。
- 2号館敷地は、サウンディングで具体内容を検討する中で、ゾーニングが決まっていると提案しづらいため、柔軟性を持たせることが重要。特に駐車場事業を県が行うかどうかは、検討の余地がある。
- 今後の進め方になるが、民間提案エリアの活用に向けては、県のスタンスを示した方が民間事業者として検討しやすくなる。

- 理念の中で、にぎわいづくりと県民交流が別々に表現されているが、一体のものとして表現してはどうか。文化施設における交流が、地域のにぎわいに影響していくことを考えれば、表現方法を工夫してはどうか。
- 公館の話を少し入れてみるのも良いかもしれない。「県民交流」が「県民会館＝交流の場」という枠に収まってしまっている印象がある。県民会館以外の交流についても、計画の中でしっかり記載されていれば、整理がつくのではないかと思う。
- 物価高騰への対応の必要性を庁内でも共有していただいたほうがよい。
- 民間事業者へのサウンディング調査では、神戸市と連携し、公共空間や道路空間をどう一体的に整備していくかを併せて聞いていただいてはどうかと思う。
- 基本計画の中で県庁舎の中身が具体化し、民間提案の内容もみえてきたら、JR 元町駅西口周辺のあり方をどう考えていくか、県・市・JR と一緒になって議論をお願いしたい。
- 建替の具体化はこれからがスタート。基本理念に掲げられている姿を実現するためのストーリーをしっかりと描いていくことが重要。
- 「にぎわいづくり」の言葉のイメージがしづらい。三宮周辺との連携のされ方や地域の文化との関係など、言葉のイメージをもう少し具体化してもよいと思う。
- 災害対応拠点とは、ボランティアセンターを設置するのか、備蓄品があるのかなど、今後具体的な議論が必要。
- 庁舎はコミュニケーションをとる場として今後さらに重要となってくるが、共創空間と集中空間も設ける中、そのバランスをどうとるかが重要。
- 働き方は今後も変化していくため、職員アンケートは定期的に実施してもよいのではないか。
- 災害対応拠点としての機能をしっかり確保するため、今後議論を深めてほしい。
- 一般の県民にとって、県庁に来る機会は少ないことから、にぎわいづくりに取り組む中で、親しみを持てるようなスペースづくりが必要
- にぎわいづくりには、インパクトのある核となる要素が必要。住民同士の交流を促すような仕掛けや、外から人を呼び込むための工夫が必要。
- 従前計画のホテル計画は豪華すぎたとしても、今回民間から新たに提案があった場合は、必ずしも全否定をすべきものではないため、民間活力を活かす進め方をしてほしい。
- 極論だが、公館をホテルにしてしまうくらいの思い切りも必要。お金だけの議論でなく、新しい価値が加わることをアピールすることが重要。
- 働き方、にぎわい、県民交流、災害対応と県庁舎整備の5つの要素が相互に重なり合い、相乗効果を発揮しつつ、無駄を省いた形で整備する理念が分かりやすく整理されたが、意見を踏まえ精査が必要。
- 「コンパクト」という言葉の意味は、5つの要素を別々に進めるのではなく、重ね合わせて整備することで無駄を省くイメージであり、むやみに縮減するわけではな

いということを発信する必要がある。

- コスト問題にも対応された形になっている
- 新庁舎を契機に働き方を変えることが重要。仮移転の段階から働き方を変えていき、新庁舎に戻ったときに働き方が定着している必要があるので、現段階からの意識改革が必要。
- にぎわいづくりは、三宮や元町駅南側などの他エリアとも違い、エリア特性を踏まえたもう少し踏み込んだ表現があっても良いかもしれない。
- 民間提案では、思い切った提案も受け入れるスタンスを記載したほうがよい。
- 床面積について、今回整理した必要機能や理念を反映できるよう、基本計画における設計段階が非常に重要。